

平成30年度

奈良県立高円高等学校 学校評価総括表

教育目標		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。				総合評価	
運営方針		安全で安心な学習環境のもと、基本的な生活習慣の確立と学力の定着・向上を図り、生徒一人一人の個性を尊重し伸ばす指導をする。					
		生徒の心身の健康に留意し、きめ細やかな指導のもと、生徒の自主的・主体的活動を推進し、自立心や社会性を育成する指導をする。					
		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、教職員が一体となって学校運営を進め、魅力と活力ある学校づくりをする。					
平成29年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		B	
授業改善に努め、「わかる授業」を進めることで、学力の定着と向上に一定の成果があった。また、基本的な生活習慣の確立にも成果を上げるとともに、落ち着いた環境で教育を推進することができた。 今後は、生徒の学習意欲の向上を促す授業の改善を進め、思考力・表現力の伸長に努める。また、生徒の自主的活動を推進し、自立心と社会性の育成を図る。 さらには、感性を働かせて、思いや考えに豊かな意味や価値を創造し、向上心を持って進路を選択する力を育成する取組を課題とする。		学力の定着・向上と主体的な進路実現		「わかる」授業・「主体的に取り組む」授業を進め、学力の定着・向上を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できる力をつける。			
		基本的な生活習慣の確立と社会性の育成		生徒一人一人の理解に努め、はじめある生活態度と他者を思いやる心を育成する。生徒の自主的・自発的な活動を推進し、社会の一員としての自覚を深めさせる。			
		心身の健康と体力の保持増進		教科指導や特別活動、保健・食育指導等とおして、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体をおして安定した豊かな心、強い心を育てる。			
		芸術教育の推進と交流活動の展開及び発信		芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりを行う。交流活動をおして地域や保護者、関係機関との連携を深め、積極的な情報発信をする。			
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習活動	生徒の基礎学力向上とともに、自主的な学習姿勢の向上を図る。次期学習指導要領に示される学習の指導法及び評価について調査研究を進める。	・「下学上達」に積極的に取り組ませる。現状や効果を各学年から聞き取り、各学年の生徒実態に即した、より充実した内容に改善していく。学年からの意見を整理し、内容を改善できればB、それに基づいた成果が上げればA。		B	・下学上達は、多様にとり組みが展開されてきている。学年毎に到達度の確認や改善を促すよう工夫されいる。教務部として統括する形ではなく、学年の主体性に任せる形ではあるが、うまく機能していると思われる。朝のSHR後、落ち着いた状態で行われており、生活面には一定の効果がもたらされていると思われる。 ・来年度より観点別学習状況評価を実施するために、職員研修を実施するとともに、シラバスに評価の観点を明記するようにお願いした。春・秋の公開授業・研究授業期間を中心に、各教科でアクティブラーニングの研究がなされた。教科と連携を取りながら意識の統一を図り、徐々に試行を進めている状況である。	・学年・教科による地道な積み重ねが大切である。 ・観点別評価とアクティブラーニングに関しては実施に向け更なる研究をしてゆく必要がある。	・毎朝の学習習慣は大変よいことである。毎日の積み重ねが大切なことで、継続されたい。今後は、読解力を付けるための内容も工夫してはどうか。 ・「主体的・対話的で深い学び」については、各教科での取り組みの他に、自由に話し合える環境づくりが大切で、LHRの活動やグループ活動などと並行して行う必要がある。
		・「主体的、対話的で深い学び」について、調査・研究を各学科・教科とともに進めると共に、アクティブラーニングを意識しながら授業を行う。予習復習の習慣づけを重点的に行い、授業をより能動的なものにする。各教科で導入が進めばB。その結果、有効な改善ができればA。		A			
		・観点別学習状況評価を各学科・教科とともに進める。来年度に向けて、職員間に一定の意思統一ができればB。基準ができ、何らかの形での試行ができればA。		B			
	各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討、編成をする。	・学習指導要領に基づいて、各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討を継続的に行う。その進捗状況により評価を行う。		B		・本年度は再編後4年目であり、生徒のニーズにあった編成となっていると考える。しかしながら、高等学校適正化実施計画の対象校となり、それに伴い教育課程の再検討が必要となる。次期教育課程も同時に視野に入れ、試案の検討を進めた。	・教育課程の見直しに関しては、県教育委員会と検討しながら計画していく。
学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上を図る。	・各分掌・学年・学科との連携や調整を密に図り、学校行事の目的を果たせるよう円滑な運営を目指す。		A	・主要行事では、教職員全員が情報を共有し、協力しあうことで円滑に運営することができた。	・今後も各分掌、各科、各担当との連携を密にして取り組む。		
	・式典の意義を考えさせるとともに、はじめをつけさせる指導を通して集中力を長時間維持させる。		A	・儀式的学校行事では、学年主任を中心に指導が徹底され、集合整列をスムーズに行うことができた。集中力をあまり欠くことなく式典に臨むことができた。	・酷暑・厳寒の際、校内放送を利用した方法を検討する。		

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生活指導	基本的な生活習慣を確立する。	・日常生活のなかで自然にきちんと挨拶ができるよう習慣づけをする。また正しい言葉使いの指導に積極的に取り組む。朝の挨拶運動や、全校集会などで挨拶することの大切さについて伝えていく。	B	B	・日常生活の中での当たり前とされる挨拶の励行については、講話や学級でのHR等で指導している。ただそれが全体に浸透しているかどうかという点はまだ努力が必要である。学級での啓発など繰り返し日常的に取り組むしかない。	・日常生活のなかで繰り返しこちらが実践しながら伝えていく必要がある。	・生徒は服装の乱れもなく、挨拶に対する取り組みも素晴らしい。
		・特別な事情のない遅刻をなくすことを目指し、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。遅刻を繰り返さない取組をする。	B		・8:30過ぎでの登校についてはあまりは正されていない。遅刻指導などで何らかの施策が必要かとも考えるが、なかなか実現できていない。	・遅刻指導のありかたについて具体的な方策を考える必要がある。	・公共交通機関の利用マナーは素晴らしい。通学時のバスの乗降の様子をよく目にするが、周囲へ迷惑がかからぬよう心がけている様子がわかる。
・制服の着こなしを意識し、きちんとした身だしなみを身につける。		A	・更衣期間等の見直しでは正できた面もある。全体的にはまずまずきちんとした状況ではある。		・学校全体で注意する意識を持つ必要がある。		
	日常生活におけるルールを徹底させ、マナー・モラル向上に努める。	・登校時間における公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、交通ルールに対する考えをしっかりと持ち、事故に遭わない遭わせない安全意識を徹底させる。 ・定期的に登下校の見回りを行うと共に、講演会などを通じて安全意識をより一層高める。	A		・交通安全教室やスタントマンによる安全教室など、二度の安全に関わる講演会を催した。一学期は事故が多く懸念されたが、二学期以降は沈静化した。歩行者優先道での自転車運転やマナーなどまだ問題点はあるが、繰り返し啓発していくなかで理解させていく必要がある。	・定期的に登下校を見回る活動や自転車登校生徒を対象に学期に一度くらいの啓発活動をする必要があると感じる。	・狭い通学路での横並びに関する苦情もあるということであるが、貴重なアドバイスとして指導を継続されたい。
進路指導	生徒の主体的な進路実現の支援に努める。	・進路の年間計画に基づき、進路HR、ガイダンス、集会等を通じて、進路を真剣に考える姿勢を育む。 ・従来の知識型入試のみならず、思考探究型入試に対応できる学力の伸長を目指し、生徒が主体的に学習に取り組める環境整備に努める。	A		・年度当初に計画した進路行事は順調に消化しており、自己の進路に対する研究態度の育成も学年が上がるにしたがって進んでいるものと思われる。一方、新テスト入試に向けた思考探究型学習に一層取組が必要であり、それを実現するための基礎学力の定着や各科目に対する興味・関心の醸成が大切である。	・日々の学習や社会の動きから、自分が得意なこと、興味のあることを見つけ出し、それに向けて深く掘り下げ研究する態度を促し支援する。	・放課後の実力養成講座を活用させたい。
	キャリア教育の構築と推進に取り組む。	・学年や担任と進路指導部が連携し、生徒一人一人の進路目標を理解して、各人の進路実現に向けた指導を展開する。 ・インターシップやオープンキャンパス等への参加を促し、生徒が自身のキャリアデザインを構築するための経験や機会を提供する。 ・ガイダンスやセミナー、講演会等を充実させて、生徒や保護者に適切な進路情報を提供し、進路意識の啓発をおこなう。	A	B	・各HRにおいて、生徒一人一人の進路について丁寧な指導を行えたと思う。生徒も、進学先のネームブランドや偏差値だけで進路を決めるのではなく、自分の学びたい分野や将来の職業を見据えて進路先を選ぶ傾向が強いの点もよいことである。ガイダンスについては、進路を意識しだす2年次後半～3年次のものが特に大切であり、生徒の志向に与える影響も強い。より充実したものとしていきたい。	・ガイダンスの実施時期の最適化や実施内容・メニューの多様化をおこなって、生徒の興味・関心により多くヒットするように務めることが必要である。	・進路指導に関する情報が保護者まで十分に伝わらないことがあった。
	変化する入試環境に向けた進路情報収集の充実を図る。	・大学や専門学校等での学びや入試選考の形が大きく変わっていくなか、最新の情報を生徒に提供すべく、積極的に現下の動きについて情報収集に努める。 ・2020年の大学入試共通テストに向けて、情報を収集するとともに、本校生に対する進路指導のあり方の研究を図る。	B		・進路決定の安全志向が全国の高校生全体にも高まっているなか、今年度はAO入試や推薦入試で進路を決定する生徒が例年以上に多い年であった。 ・先のことでは、新テスト導入に向けて、本校生徒が多く受験・進学する大学群の入試改革の動向がいまだに明確でないところが多いため、高校の取組の計画も立てにくく苦慮している。	・来年度は新テストの実施方策も各大学から具体的に出されるだろう。それを受けて、本校でも対策を考えていかねばならない。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
特別活動	生徒の自主的、主体的な活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が先導し、文化祭などの学校行事に積極的に生徒が関わる。 ・生徒会が中心となって美化活動、ボランティア活動、挨拶運動などへの参加を奨励・推進する。 ・他校・地域なども積極的に交流し、生徒会の活躍の場を広げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や学校行事に積極的に参加する生徒が多数見られた。 ・各部活動、委員会活動や学校行事の機会を生かして地域とのつながりを持つ活動が行われ、生徒たちが活躍する姿が見られた。 ・生徒会本部の活動では、意見箱の設置、挨拶運動、清掃運動、募金活動などに積極的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場の行事の安全性について確保の工夫する。 ・8月からの文化祭の準備を定着させる。 ・生徒会と各委員会や部活動との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業や生徒会活動、芸術科の活動を通して、地域の保育園や障害者施設などとの交流を活発に行っている。
	学科間や高等養護学校分教室との交流、部活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術学科の様々な活動や委員会活動を生徒会が中心となって全校生徒に配信する。 ・学年クラスを越えたグループでのフットサル大会や文化祭への参加を強く呼びかける。 ・各部の活動の更なる活性化を図るため、生徒会としての範囲内で施設や設備の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分教室生徒の文化祭でのファッションショーやイベント、フットサル大会への参加が定着し交流を深める機会となっている。 ・学校改編や2022年度の創立40周年に向けての準備計画が必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等養護学校分教室との生徒代表間での企画交流の場を検討する。 	
	図書館利用・運営の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の図書館利用や読書活動に積極的に働きかける。またクラス図書委員の活動の幅を広くし、新たな角度からの図書館利用を図る。 ・課題研究や資料参照など、教科での図書館利用を一層活性化させるために各教科との連携を深める。 ・次年度の新入生への図書館オリエンテーションの実施方法や企画について検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に配布していた広報誌「図書館より」をクラス向けの「図書館通信」として発行し、管理を図書委員に任せ。「図書委員会だより」も前年同様年間3回発行することができた。 ・課題研究に対する資料の充実については道半ばであるが、本年は国分奨学金による図書への寄贈も受けることができ、専門書を中心に本を揃えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに図書館の利用を促していくための工夫を考える。 	
環境 安全教育	校内、校外美化の徹底と防災、防火に関する意識啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内及び校外美化活動を各学期に1回実施する。 ・避難・消火訓練・救助袋降下訓練、シェイクアウト訓練を通して防火、防災の意識向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員を中心に高等養護生と共に美化活動を実践した。 ・地震発生による火災を想定し、シェイクアウト訓練を合わせ、また紀伊半島水害の学習も含め防災意識の高揚に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化活動を充実させる。 ・防火訓練のあり方について再検討する。 	
健康教育	健康状態を把握し自己管理できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の活動を通して健康意識の向上を図る。 ・保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員を中心に文化祭等で健康意識の啓発活動を行った。 ・保健だよりを月1回発行し健康意識の向上、食育、インフルエンザ・ノロウイルスの感染予防等を行った。生徒の興味を引く内容を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症、食物アレルギー対応、感染症対応等学校医の助言を元に具体的対応を検討する。 ・環境検査を受け、換気の積極的実践を行う。 	
	新体力テスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営を図る。また、体育大会について生徒の感想、意見の集約を行い、「満足した」「おおむね満足した」が80%以上になるよう努力する。 ・新体力テスト50m走を工夫する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員を中心に準備、片付け等を円滑に行なった。体育大会では各学年に新しい種目を設定したが、生徒はおおむね意欲的に取り組んでいた。雨天のため、予備日に実施したにもかかわらず、最後まで実施できなかった。「満足した」回答は、目標を達成できなかった。 ・新体力テスト50m走のゴールが芝生にとなる設定をしたが、昨年度よりデータは、良い傾向にあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会の実施時期を各行事との兼ね合いの中、検討が必要となってきた。 ・50m走の走路は、来年度も同じ方向で進めたい。 	
人権教育	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HR・講演会・職員研修会等を通じて人権問題に対する意識の向上を図る。 ・全学年に夏休みの課題として人権作文を書かせる。 ・共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実地研修会では新着任職員をはじめ7名が参加。講師の方から「部落差別解消推進法」の意義と課題について説明を受け、差別の現状について講義いただいた。 ・4月、新入生を対象に高等養護分教室の先生からインクルーシブ教育についての講演会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実地研修会での交流は本校の人権教育のもととして継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーラスや吹奏楽による交流が多いが、今後は、美術やデザイン科との交流も増やしてほしい。
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つ仲間集団作りの取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・バルツァゴーデル(重症心身障害児学校・病院)との交流会を実施する。 ・奈良養護学校との交流会を年2回実施する。 ・高等養護学校分教室との交流を学校行事を通じて行う。 ・音楽科やその他の部活動生徒とも連携し、交流会の形を作る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良養護学校、バルツァゴーデルでの交流会を予定通り実施できた。12月の奈良養護学校との交流会は出し物としてハンドベル演奏をした。また交流委員の参加生徒も得るものが大きかった。 ・三学期に「校内人権作文集」を発刊した。 ・高等養護高円分教室の生徒参加のもと文化祭・体育大会・長距離走大会等を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年のことであるが交流委員全員が参加できる日程を探りたい。 	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談	教育相談および特別支援教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育推進委員会を定例化し、年間3回開催するなかで、さらに生徒理解を深める。 教育相談や特別支援教育に対する知識理解を深め、必要となる相談や支援の取組について職員研修会を開催する。 ピアサポーターとの連携を深め、生徒理解に活用するためにピアサポーターとの連絡会議を学期に1回実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育推進委員会を、学期に1回、年3回開催した。管理職、スクールカウンセラーにも毎回参加を得て、本校の生徒・先生方に必要なサポートとは何かを共に探っている。形として定着しつつあるが、形骸化することなく、生徒・先生方を具体的にサポートできるものになりたい。 スクールカウンセラーによるカウンセリングは、毎回満杯の状況である。カウンセリングをきっかけとして、生徒や保護者への日常の支援につなげていくことが課題である。 スクールカウンセラーを講師として職員研修を開催した。また、特別支援教育に関する自主研修会を夏期休業中に開催し、多くの教員が参加した。 奈良教育大学との連携を整備した。ピアサポーターとの連絡会議は、年間1回開催。ピアサポーターは生徒たちに必要な存在であるが、本年度は有効な活用ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に個々のケースを話題とし、ケースごとにより具体的な相談ができるようこころがける。 ピアサポーターをさらに有効活用する。 	
広報活動	広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> Webページ、新聞、各種メディア等を利用した広報活動を一層充実させる。 学校見学会を充実させる。 中学校等への積極的な情報提供を図り、本校のよさを広く伝えていく。 Webページの充実と活用について職員に啓発する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 例年行っている広報活動におわれ、新たな広報活動を展開することができなかった。 学校見学会、出前授業、オープンキャンパス等の参加人数が多く、本校の良さを伝えることができた。 Webページについて職員の研修を行ったが、Webページの更新等が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> Webページについての職員研修をさらに充実させ、更新作業に慣れてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 高円高校は芸術の専門学科もある。演奏会や美術展をはじめ校内外の活動、あるいは卒業後の進路など、もっとわかりやすく情報発信していく必要がある。
育友会・同窓会活動	保護者との意思疎通の向上を図るとともに同窓会活動を円滑化する。	<ul style="list-style-type: none"> 育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率10%超を目指す。 同窓会総会、役員会等のスムーズな運営に助力する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 育友会関係の業務は事務室が主体となっているが、今後はもっと事務室との連携を強めていきたい。 役員活動は盛んであるが、保護者の参加率は目標の10%を超えなかった。保護者が参加したいと思える企画を考える。 同窓会運営に関わって、会場の準備等で助力することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参加について、駐車場を検討する。 誰が担当になっても同窓会役員と密に連携をとれるシステムが必要である。 	
第1学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、あいさつ、正しい言葉遣いの指導を徹底する。 遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(生徒個人ごとに、各学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。 ルールや期限を厳に指導し、特別な指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみや挨拶は良好な状態である。 生活の乱れによる遅刻数過多の者は6名、4月からの累計で20回を超える者については保護者と連携し、状況の共有や指導の協同を進めた。 特別な指導を要する生徒数は目標の3%を下回った。スマホに関する違反が後を絶たず、自己点検を促す指導の一層の強化を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> スマホ依存による睡眠のリズムの崩れが気かりである。多面的に生活の改善を呼びかけていく。 遅刻欠席を機に、望ましい生活習慣の確立を指導していく。 	
	家庭学習の習慣づけを行い、基礎学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 「下学上達」に積極的に取り組み、学習習慣の定着とともに基礎学力の向上を図る。 教科担当と連携をとりながら理解不足の状況を把握し、補習の実施など学年からも呼びかける。 提出課題を把握して全員提出を呼びかけ、期日までに提出を徹底させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 下学上達は漢字の習得に取り組んだ。漢字検定でいうところの5級から準2級までを対象に、一年を通して継続的に知識を補強していった。 いくつかの科目で考査に向けての補習が実施された。教科担任と学級担任が連絡を密にし、個に応じた支援を検討した。 一部の生徒が提出物を済ませられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで質問に行くといった学び方の定着を図る。 与えられた課題に着実に取り組むことの意義を繰り返し指導していく。 	
	自己表現力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事やHR活動に積極的に参加させることで、なかまづくりや他の生徒を尊重する態度・意識を持たせる。 課外活動への積極的な参加を促し、チームワークや社会性の獲得を目指す。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 文化祭や体育大会では、消極的な生徒はほとんどなく、自分の役割を果たしつつ、グループでなごやかに楽しむ姿が好ましかった。 部活動や生徒会活動にも積極的に参加し、行事などを通して仲間づくりが進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな活動を通して、人間関係を広げる機会となるよう役割分担等工夫していく。 	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	<p>基本的な生活習慣を身につけさせ、規範意識を向上させる。特に、修学旅行に向けて時間を厳守する態度を育てる。</p>	<p>・遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。 ・服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す)。 ・チャイムですぐにスタートできるように余裕を持って行動をする習慣作りを行う。</p>	B	<p>・遅刻指導を行った生徒は2学期までで16名。3学期も考えると少し人数は増えそうである。特に交差点の信号が切り替わってからの遅刻者も多く余裕のない朝の登校の実態が浮き彫りになった。 ・服装に関しては完全ではないが制服に関してはきちんと着こなしてはいるが靴下が模様のある靴下をはいてくるなど課題が出てきた。(特別指導に関しては2名指導を行った。) ・チャイムでの授業の切り替えは担当の先生方が早めに教室に行っていたいただいていることからけじめのある雰囲気の中で授業を受けている。</p>	<p>・粘り強く声かけが必要。修学旅行で時間の大切さも話をした。家庭との連携も必要など。面談でもご協力を要請した。服装に関しても同様である。</p>	
	<p>基礎学力の向上のため、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化を図る。</p>	<p>・教科担当と連携を密に取り、生徒のつまずきに早期に対応し、基礎学力の定着を図る。また、課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する(期限厳守、提出率100%を目標とする)。</p>	B	<p>・定期考査の結果状況で各担任の先生方がかなり丁寧に指導していただいたおかげで学習や提出物の意識が向上してきていると考えられるがまだまだ意識を持って行動してもらいたい者もいることは事実。100%とはいかなかった。</p>	<p>・提出物に関しては許可担当との連携で提出状況を担任と共有することで粘り強く指導を行う。また、保護者との連携も必要である。</p>	
	<p>社会性の意識向上と習得を目指す。</p>	<p>・学校行事や学級活動、部活動などさまざまな機会を通して、自己を表現する力や他の生徒とのコミュニケーションをとる力を身につけさせる。また、全生徒が自発的に気持ちのよい挨拶ができる集団を目指す。学校評価アンケートで80%以上の回答を目指す。</p>	A	<p>・各学校行事に積極的に参加をすることでクラスの仲間作りやコミュニケーションの仕方など意識をした者も多いがまだまだSNSの危険性や扱いなど専門的な先生からの講演が必要と考えられる面もある。挨拶は樹上に声に出せるようになってきてはいるが粘り強い指導が必要である。</p>	<p>・総合学習などで表現トレーニングを普通科で実施した。外部講師の招聘し、意識をしっかりとって小論文や志望理由書など作成するためのノウハウをこの2年で下積みする予定である。</p>	
第3学年	<p>礼儀・マナーの大切さを再確認し、基本的な生活習慣の更なる確立と実践を図るとともに、規範意識を一層向上させる。</p>	<p>・遅刻者の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。全体として前年比20%減少を目指す。) ・服装・頭髪等を正すなど、最高学年としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す。)</p>	C	<p>・指導をした生徒は55名で、昨年度より22名増加し、遅刻総数も1000を超え、大幅に増加する結果となった。2学期以降、常習的に遅刻を繰り返す者に加えて、不安を持った進路未決定者、進路が決定し気持ちの緩みが出た者の遅刻増加が顕著であった。 ・特別指導した生徒は1名で、全体的には落ち着いて学校生活を送っており、指導にも素直に従い改善する生徒が多い。</p>	<p>・不安を抱えている生徒には細やかな声かけを、進路決定者には最後まで頑張り抜く指導を継続することが一層必要である。 ・頭髪・服装・化粧等の指導は今後も同様に継続して行う。</p>	
	<p>社会性の獲得を目指す。</p>	<p>・学校行事や学級活動、部活動などさまざまな機会に、さまざまな人と関わることによって、自己表現力・コミュニケーション力・社会性の獲得を目指す。</p>	B	<p>・各科目も、学校行事・学級活動に積極的に取り組み、生徒間の交流も深まり、他者に対して思いやりの心を持って接することができる生徒が増えてきた。また、高志創造では昨年度に引き続き「表現トレーニング」を取り入れ、読む・書く・話すことを実践したり、面接練習や手紙の書き方など様々な経験をさせることができた。</p>	<p>・SNS等、教員の目につにくい部分でのトラブルに対して注意を払う必要がある。</p>	
	<p>生徒の目標とする進路を実現できるように必要な支援を行うとともに、生徒個々の自己管理能力を向上させる。</p>	<p>・実力養成講座、各種ガイダンス、面接・小論文指導、学年集会、三者面談などを通して、自己の進路実現に向けた意識・意欲を高める指導を徹底する。</p>	A	<p>・学級担任・進路指導部を中心にきめ細かく進路指導が行われ、早い段階から進路に向けての意識を高めることができた。また、面接指導、小論文指導、実力養成講座など受験生をバックアップする体制が充実していた。しかし、早い段階でのAO入試で進路先を変更する生徒が多く見られたのが課題であった。</p>	<p>・AO入試や推薦入試に向けて、早い段階から面接・小論文指導を行うことも必要だが、センター試験や一般試験など最後まで粘って自己の進路目標を実現する環境作りも重要である。</p>	